

第20回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和2年8月24日（月） 午前9時～午前9時58分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 協議事項

- (1) 生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方及び生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方の策定について

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史 副市長 山 本 昇

5 教育委員会側出席者

教育長	中 田 好 昭		
委 員（教育長職務代理者）	飯 島 敏 文	委 員	寺 田 詩 子
委 員	神 澤 創	委 員	坪 井 美 佐
委 員	レイノルズあい	委 員	西 井 久 之
委 員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

6 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
学校給食センター所長	財 満 直 也	こども課長	松 田 悟
こども課指導主事	川 田 奈津子	こども課指導主事	松 本 裕 美
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	小 北 敦 志
教育指導課課長補佐	日 高 興 人	教育指導課課長補佐	八 代 大 輔
こども課課長補佐	大 窪 奈都子	教育総務課（書記）	牧 井 望
教育総務課（書記）	鬼 頭 永 実		

7 傍聴者 8名

午前9時 開会

○開会宣告

○市長挨拶

小紫市長：本日は以前から継続している生駒市立幼稚園・小中学校のあり方に関する議論をさせていただく。本会議後すぐ、教育委員会の定例会を開催予定と伺っており、具体的な議論は、そちらが中心になると思う。前回協議していた際のロードマップからの変更点があったので、そちらの確認をさせていただく。また、学識の先生方を中心に頂いた答申に対する、パブリックコメントや議会からの意見を取りまとめているので、その報告をさせていただく。現在、新型コロナウイルスや熱中症といった学校教育において最重要な安心・安全に対する不安や課題が出てきている。そのような状況下ではあるが、今後の小中学校、幼稚園がどうあるべきかを検討するために、重要な局面でもある。本日もよろしく願いしたい。

○協議事項

(1) 生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方及び生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方の策定について

・生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方及び生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方の策定について、山本教育総務課長から説明【資料1】～【資料3】

(質疑)

小紫市長：資料1について、以前に比べて、少し日程を具体的に入れた。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全く見通しが付かなかった。現在も感染拡大が収まらない情勢ではあるが、事務局との協議の上、見通しを付けさせていただいた。また、前回と大きく変わった点がある。前は答申内容について地元の説明し、地元の意見を頂いてから、市としての基本的な考え方をまとめていくというものだった。しかし、現在の社会情勢を踏まえ、意見交換の場を設けることは難しいという意見を地元から頂いている。そのことを受け、まずはパブリックコメントや議会で頂いた意見を参考にしながら、市としての考え方を決めるものに変更した。本件については、市としての考え方は定まっていないのに、早い段階でメディアに取り扱われ、それが市としての方向性であるかのような誤解が生じているが、市としての考え方は、まだ正式に出していない。そのような状況から、一度市としての基本的な考えを、整理してお示し

しなくてはならないと思う。答申をもとに地元と意見交換をする形から、現状でいただいている意見を基に考え方を整理し、その上で地域に説明にあがり、意見を頂く形に変更した。基本的な考え方とは、最終的な決定ではなく、あくまで素案である。そのようなたたき台が無いと、地元としてもかえって意見が出しにくいと思うので、まずは基本的な考え方を教育委員会にて策定し、その後地元に入るという段階を踏みたい。以上の点が、前回からの大きな変更点である。資料1についても、本日の教育委員会において議論していただく。その上で、考え方の素案について総合教育会議において、市長・副市長を交えて協議する。その後基本的な考え方を策定し、議会にも説明してから、今年11～12月頃から、地元に入る。以上のスケジュールを考えている。では、資料1について、質問等あるか。

伊藤委員：資料1は小・中学校のあり方についてのロードマップであるが、幼稚園も同じと考えれば良いか。

小紫市長：そのとおりである。幼稚園についても同様と考えていただければ良い。また、地元に入った後に、地域協議会、準備懇話会の二つがあるのが、分かりにくいかもしれない。地域の皆様にも入っていただき、議論していただく場として、地域協議会を考えている。地域協議会はどちらかというところ、小・中学校のあり方について、現在の学校を存続していくのか、統合するのか、複合化するのかという、大まかな方向性を決めていく場となる。その方向性に則り、実施に向けて細かく調整をしていくのが、準備懇話会である。他に何かあるか。

レイノルズ委員：前回のものを見て、私の方から答申に対して教育委員会の意見表示はいつかと質問したものが、今回のスケジュールには反映されている。具体的な議論は教育委員会においてすることになるが、10月に総合教育会議をするに当たって、どのような方向性が良いのか、委員として具体的に検討する時期になった。現段階で懸念があるのは、統廃合も含めて検討していくこととなっている当該校やその周辺について、委員が把握しきれていない点である。具体的には、なばた幼稚園、生駒南小学校、生駒南第二小学校になるが、私はその地域に住んでいるので、普段から見聞きすることがあるが、委員のほとんどが北の地域に住んでいる方なので、地域的特色や、地域的にどのような懸念があるのか、現地を見ないと、分からない。現状把握をする機会が必要である。

中田教育長：レイノルズ委員からの提案について、現地調査が必要である。このあとの教育委員会において、考え方の策定に係る議案が提出されているので、その際、現地調査を諮らせていただきたい。

小紫市長：是非現地を見ていただきたい。資料1については以上である。資料2～

3については、教育委員会で議案において、素案が示され、委員会として審議する予定となっていると伺っているので、そちらで議論していただきたいと思う。その議論や現地調査を踏まえて、10月に総合教育会議にて報告していただき、市長・副市長からも意見を出していきたいと思う。資料2・3については、市長・副市長も目を通させていたいただき、パブリックコメントや議会の意見も拝見している。教育委員会において議論をしたうえで、10月の総合教育会議、若しくは、必要に応じて、それまでの期間であっても意見交換の場を持ちたい。委員から先に言っておきたいことがあれば、お伺いしたい。

(発言なし)

小紫市長：特に無いようなので、私からの意見をお伝えしておく。学校のあり方に関する議論については、教育委員会として決定していくものであるが、教育委員会部局だけで議論しても、市として正しい解に辿り着くことはできないと思う。子どもたちの学びの場であることは大前提だが、幼稚園・小中学校とコミュニティの関係性や、学校を核にしたまちづくりについて、行政においても検討すべき命題である。本件については、市長部局も共に考えていくし、教育委員会においても、教育をベースにしつつ、まちづくりの観点を持って議論していただきたい。また、地域の皆様も、地域と学校のあり方について、単に廃校、統合ではなく、今まで地域で行ってきた学校を核とした地域活動について、学校が存続することによって、統合されることによって、どのような影響が出てくるか、どのように変化していくのかを考えていただきたい。当市は市民の皆様にも汗をかいていただき、共にまちづくりをしていくことを目指している。該当する地域のすべての皆様に、関心を持って議論していただきたい。教育だけではなく、まちづくりの全体的な視点から、市としてどのような方針とするか、決めていきたい。本件は行政のみではなく、地域の方からの協力が不可欠である。本格的な議論は、次回の総合教育会議からとなる。具体的な議論は、この後の教育委員会において、協議されるということなので、よろしくお願いしたい。

○閉会宣告

午前9時58分 閉会